

八ヶ岳 JOMON ライフフェスティバル 記録集

#0

「生きる」はもつと

素直でいい



2017

09.09 — 10.22

八ヶ岳 JOMON ライフフェスティバル実行委員会



コンセプト

「生きる」はもっと素直でいい

画一的な基準で大量に生産されたものを消費する時代から、ひとつひとつのものの美しさ、こだわりに触れる喜びが時代の潮流になりつつあります。

それは、食べるものであったり、住むところであったり、着るものであったり、今までの価値観では測れないものに、人は何かを見つけようとしています。

私たちの暮らしの原点は縄文時代にあると言われています。

また、そのライフスタイルや縄文文化を築いた人たちの心のありようは、現代の人が求める答えに通じていると私たちは考えます。



Kamen no Megami

Jomon no Venus

National Treasure "DOGU"

その答えの一つとして、縄文から続くこの 5000 年の地で“生きる”をテーマとしたライフフェスティバルを開催します。

今から約 5000 年前の縄文時代中期には、八ヶ岳山麓の豊かな自然の中で、縄文文化が栄えました。長野県茅野市には、2 体の国宝土偶「縄文のビーナス」（右）と「仮面の女神」（左）や、230 ヶ所以上の縄文遺跡など、八ヶ岳山麓の豊かな自然に囲まれて、生き生きと暮らしていた人々の営みのあとが数多く残されています。



開催内容

名称 八ヶ岳 JOMON ライフフェスティバル

期間 平成 29 年 9 月 9 日（土）～ 10 月 22 日（日）（44 日間）

総来場者数 29,425 人

主催 八ヶ岳 JOMON ライフフェスティバル実行委員会

後援 信濃毎日新聞社、長野日報社、信州・市民新聞グループ（7 紙）、NHK 長野放送局、SBC 信越放送、NBS 長野放送、TSB テレビ信州、abn 長野朝日放送、LCV、長野エフエム放送、JR 東日本長野支社、信州諏訪農業協同組合、茅野商工会議所、茅野市商業連合会、諏訪圏青年会議所、茅野市芸術文化協会、アルピコ交通株式会社、第一交通株式会社、アルピコタクシー株式会社

長野県 地域発 元気づくり支援金活用事業



実行委員長より

茅野市長 柳平千代一



茅野市では、八ヶ岳山麓の豊かな自然を舞台に、世界的にも類まれな縄文文化が花開きました。縄文時代中期には日本で最も人口が集中した地域であったと言われ、「縄文のビーナス」「仮面の女神」と愛称されている 2 つの国宝土偶、国特別史跡の尖石遺跡、国史跡の上之段遺跡、駒形遺跡といった日本を代表する遺跡をはじめ市内には 230 ヶ所以上の縄文遺跡が発見されています。

茅野市では地域の宝である「縄文」を考古学の分野にとどめず、私たちの生活の中で「まちづくり」、「ひとづくり」に活かし、また“縄文のみやこ”として全国へ発信すべく「縄文プロジェクト」を進めています。

八ヶ岳 JOMON ライフフェスティバルは、このプロジェクトの一環として、茅野市が世界に誇る「縄文」を広く発信すること、そして市民や来訪者が「縄

文」に親しみ、学び、何より大いに“楽しむ”ことを目的に、“生きる”をテーマとして開催しました。

八ヶ岳 JOMON ライフフェスティバルは、次回第 1 回を東京オリンピックの年に開催すべく、今回はスタート地点を見据えた、試行のための“第 0 回”として行いました。

自然と共生し、日本文化の基層をなしている縄文人の精神性、心のありようは、急速にグローバル化する世界、情報化する社会にあって、現代人が忘れてはならない“人の生き方”に通じるものがあると私たちは考えています。

今回フェスティバルに参加いただいた方、また、次回参加いただく方、多くの皆さんが、縄文の素晴らしさや“生きる”ことの楽しさ、大切さを感じていただき、その想いを茅野市から未来へ、そして世界へと繋いでけたら幸いです。



オープニングセレモニー・・・・・・・・・・	5p
メディアアーティスト後藤映則氏 ライフフェスティバル記念作品公開 9月9日(土)10:00～11:00 場所：茅野市尖石縄文考古館	
宮坂英式記念 尖石縄文文化賞授賞式・・・・	6p
10月7日(土)10:30～12:00 場所：茅野市尖石縄文考古館	
仮面の女神誕生日パーティー・・・・・・・・	6p
8月26日(土)12:00～21:00 場所：茅野市民館 中庭	
オープニング記念 原田マハ氏講演会・・・・・・・・・・	7p
「生きるばかり 茅野に暮らすしあわせ」 9月9日(土)13:30(開場 13:00) 場所：茅野市民館 コンサートホール	
縄文を識る・特別講演会 大島直行氏講演会・・・・・・・・・・	7p
「縄文人の心 生命と再生をめぐる精神性と世界観」 9月18日(月・祝) 13:30～(開場 13:00) 場所：茅野市民館 コンサートホール	
「土偶の日」記念対談 譽田亜紀子氏×守矢考古館長 『「土偶のリアル」を語る」・・・・・・・・	8p
10月9日(月・祝)13:30～15:00 場所：茅野市尖石縄文考古館	
縄文文化大学講座 「星降る峠に黒耀石を求めてー縄文時代黒耀石 鉱山の調査からー」・・・・・・・・・・	8p
10月7日(土) 13:30～15:00 場所：茅野市尖石縄文考古館	
縄文ゼミナール 「SUWA × JOMON」・・・・・・・・・・	8p
「縄文人の祈りの地 阿久遺跡」 8月12日(土) 13:30～15:00 「黒耀石鉱山から考える縄文人の生活」 9月16日(土) 13:30～15:00 「諏訪湖底曽根遺跡 見えない遺跡が魅せるもの」 10月14(土) 13:30～15:00 場所：茅野市尖石縄文考古館	
縄文科学習展示発表・・・・・・・・・・	9p
8月25日(金)～9月12日(火) 9:00～16:30 場所：茅野市尖石縄文考古館	
縄文かるた大会・・・・・・・・・・	9p
10月15日(日) 9:00～15:00 場所：茅野市青少年自然の森	
ナイトミュージアム・・・・・・・・・・	10p
第1回こども向け 8月19日(土)19:00～ 第2回おとな向け 9月9日(土)19:00～ 場所：茅野市尖石縄文考古館	

特別展「CHINO/ 茅野×縄文/JOMON」・・	10p
7月15日(土)～10月22日(日) 場所：茅野市尖石縄文考古館	
公民館縄文講座・・・・・・・・・・	10p
「縄文を識るー『茅野市縄文ガイドブック』の活用ー」 9月21日(木) 「科学がさぐる縄文」 9月28日(木) 「棚畑の土偶 中ッ原の土偶」 10月12日(木) 場所：茅野市公民館	
縄文検定・・・・・・・・・・	10p
上級検定 9月16日(土) 10:00～12:00 初級・中級検定 10月14日(土)10:00～12:00 場所：茅野市尖石縄文考古館、茅野市青少年自然の森	
平原綾香ライブ with 平原まこと・・・・	11p
10月22日(日)17:30開演(開場 17:00) 場所：茅野市民館 マルチホール	
JOMON ファッション「縄文の衣」 ～喜びを伝える風と時間の祝祭～・・・・	11p
9月16日(土)16:30～(開場 16:00) パフォーマンス 場所：茅野市立永明小学校体育館	
Chino 縄文遺跡 コンサート&トーク 2017・・・・・・・・	12p
～国宝土偶「仮面の女神」が出土した中ッ原遺跡から～ 9月2日(土)19:00～ 場所：中ッ原縄文公園	
JOMON フードスケープ 「縄文のうつわ展」・・・・・・・・・・	12p
9月22日(金)～10月2日(月)、10月8日(日)～22日(日) 場所：茅野市美術館 常設展示室、茅野市玉川荒神の古民家	
JOMON フードスケープ 「現代的縄文食風景」・・・・・・・・・・	12p
10月8日(日)～22日(日) 場所：茅野市玉川荒神の古民家	
竪穴式茶室「低過庵」・・・・・・・・・・	13p
制作ワークショップ 7月23日(日)～8月27日(日) 場所：茅野市宮川高部、茅野市民館 低過庵オープン&フジモリ建築見学会 9月17日(日) 場所：茅野市宮川高部 フジモリ建築見学会 10月7日(土)、21日(土) 場所：茅野市宮川高部 「低過庵」公開 10月1日(日)、4日(水)、8日(日)、9日(月・祝) 12日(木)、15日(日)、20日(金)、22日(日) トークイベント「人が求める住まいとは？」 10月20日(金) 場所：茅野市民館マルチホール	
尖石縄文の里 夜の火祭り・・・・・・・・・・	15p
10月7日(土) 17:00～20:00 場所：尖石史跡公園	

茅野市 5000 年尖石縄文まつり '17・・・・	16p
10月8日(日)9:00～15:00 場所：尖石史跡公園	
市民活動展・・・・・・・・・・	17p
8月26日(土)～10月26日(木) 場所：茅野市図書館	
縄文関連商品展示・・・・・・・・・・	17p
9月23日(土)～10月8日(日) 場所：ベルビア 2階催事場	
こどもたちとみんなの JOMON アートワーク・・・・・・・・・・	17p
10月1日(日)～22日(日) 場所：茅野市民館 中庭、ロビー、スロープ	
道しるべの土器ランプ・・・・・・・・・・	18p
9月9日(土)～10月22日(日) 場所：茅野市内各所	
「道しるべ土器ランプ」 旅立ちお祝いセレモニー・・・・・・・・	18p
9月23日(土) 13:00～14:30 場所：駅東口ハヶ岳 JOMON ライフフェスティバル インフォメーションセンター前	
まちの展 vol.4・・・・・・・・・・	18p
10月1日(日)～22日(日) 場所：茅野市民館、茅野駅周辺店舗・施設	
ギャラリー・バードハウス・・・・・・・・	18p
10月1日(日)～22日(日) 場所：茅野市民館中庭～市役所通り	
ギャラリー・ビオラハウス・・・・・・・・	18p
10月1日(日)～22日(日) 場所：茅野市民館 東広場	
縄文風小屋づくり体験・・・・・・・・・・	19p
体験会 7月22日(土)・23日(日) 8:30～15:00 場所：茅野市尖石縄文考古館 玄関前広場 縄文風小屋づくり体験 10月8日(日) 8:30～15:00 場所：尖石史跡公園	
縄文教室・・・・・・・・・・	20p
「竹ざるを作ってみよう編んでみよう」 9月23日(土)・24日(日) 9:30～15:00 「縄文時代の編み方を学ぶ」 講演会 10月21日(土)14:00～15:30 体験講座 10月22日(日)9:30～15:00 場所：茅野市尖石縄文考古館	
縄文を楽しむ教室・・・・・・・・・・	20p
「縄文あんぎんでプレスレットを作ろう」 8月6日(日)9:30～12:00 「縄文のビーナスの土笛、仮面の女神の土鈴を作ろう」 9月9日(土)9:30～12:00 「小さい縄文のビーナスを作ろう」 9月17日(日)10:00～15:00 場所：茅野市尖石縄文考古館	

縄文支え合い広場・・・・・・・・・・	21p
9月9日(土)～10月22日(日) 場所：各種イベント会場	
HAPPY HALLOWEEN 縄文カフェ・・・・	22p
10月14日(土)10:30～16:00 場所：茅野駅前 ベルビア 1F・2F	
JOMON ライフフェスティバル 開催記念フレーム切手シート・・・・・・・・	22p
9月8日(金)～10月22日(日) 販売：茅野市・富士見町・原村内郵便局、縄文まつり会場ほか	
第22回縄文文化講座 「古代出雲の神話からみた交流と諏訪」 8月27日(日)13:30～ 場所：マリオローヤル会館(茅野駅ベルビア3階)	
総合博物館プラネタリウム 9月2日(土)～10月29日(日) ※土日祝 場所：茅野市ハヶ岳総合博物館	
峠の茶屋から楽しもう ～諏訪湖新作花火大会とロマンチックな夜景を満喫！～ 9月2日(土) 場所：峠の茶屋	
ハヶ岳縄文の里マラソン 9月10日(土) 場所：茅野市尖石縄文考古館周辺	
インフォメーションセンター 9月9日(土)～10月22日(日) 場所：茅野市民館イベントスペース特設情報コーナー	
きのこ食中毒防止展 9月30日(土)・10月1日(日) 10:00～16:00 場所：西友ちの横内店	
縄文夜話 10月7日(土) 場所：笹離宮	
縄文市場 10月8日(日) 場所：尖石縄文まつり会場	
どんぐり見つけてあそびましょ(雨天のため中止) 10月14日(土)10:00～12:00 場所：尖石史跡公園	

オープニングセレモニー（主催：企画室）



9月9日朝、晴天の秋空のもと、八ヶ岳 JOMON ライフフェスティバル（以下、フェスティバル）のオープニングイベントが開催された。司会進行はこのイベントのために何かできないかと問い合わせをしてきてくれた中学生2人（鵜飼夢唯さん、名取希さん、長峰中学校2年生）。実行委員長による開会宣言

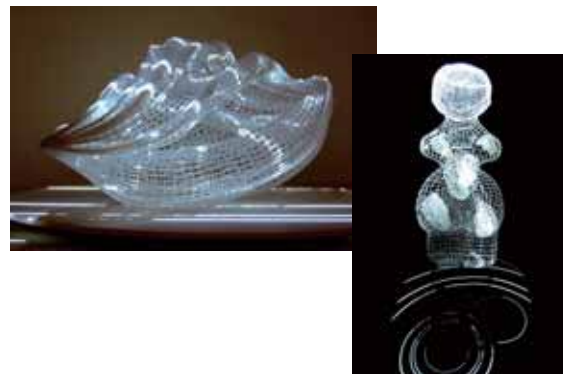


ののち、空高く放たれたバルーン。このバルーンは、本フェスティバルのコンセプトを尊重し、すべて自然に還る素材で作られているものを採用した。考古館入口で来場者向けに行われた縄文風どんぐりみそ汁のふるまいも大盛況だった。

土偶をモチーフにしたシンボルオブジェが誕生

フェスティバルの開催を記念して、メディアアーティストの後藤映則さんが制作した記念オブジェ2体をフェスティバル期間中、茅野市尖石縄文考古館で展示した。オブジェはそれぞれ縄文のビーナス、仮面の女神をモチーフに制作された。小さな箱に収められた回転する白い造形物に幾筋かの光が当たると、

隠れていた別のイメージが現れるオブジェ。箱の中にはそれぞれの土偶に込められたであろう願いや、縄文から現代への悠久の時の流れが照らし出され、のぞきこむ人を魅了した。点灯式では、浮かび上がる意外なイメージに参加者から思わず歓声が洩れる場面も見られた。



第18回 宮坂英弼記念 尖石縄文文化賞授賞式（主催：茅野市尖石縄文考古館）



茅野市尖石縄文考古館にて授賞式が行われ、本年度の受賞者・矢野健一さん（立命館大学文学部教授）による記念講演が行われた。矢野さんは西日本の縄文土器の研究を積み重ね、精緻な編年を築き上げたことを評価されての受賞となった。記念講演では、縄文時代の集落の継続性について、土器研究の蓄積をベースに、集落の人口規模や食料貯蔵に関する調査を加味して論じた近年の研究を紹介しながら、茅野との繋がりに関するエピソードもお話しいただいた。

仮面の女神誕生日パーティー（主催：まちなか賑わい部会）



仮面の女神の誕生日を祝いながらフェスティバルのイベントとして行われた。この日、茅野市民館中庭は巨大フードコートに変身。芝生の上には10軒を超える露店や緑日が並び、会場では「仮面の女神」を模した巨大バルーン・カメリーナが来場者を出迎えた。会場は予想を大幅に上回る2,000名余の来

場者でにぎわい、それぞれ食べ物や飲み物を片手に、東海大学諏訪高等学校吹奏楽部のスペシャルステージや、小津安二郎記念・蓼科高原映画祭実行委員会とのコラボによる市民館壁面を使った映画『ジュラシック・ワールド』の上映を楽しんだ。

オープニング記念 原田マハ氏講演会（主催：まちなか賑わい部会）



「生きるばかり 茅野に暮らすしあわせ」をテーマに行われた人気作家・原田マハさんの講演会には、市内外から多くのファンが詰めかけた。茅野市民会館コンサートホールは満席となり、場外のモニターを熱心に見入る来場者も見られ、小説からエッセイ、漫画とのコラボまで幅広く活躍する原田さんの人気の高さがうかがわれた。講演ではエッセイや小説に描かれた様々なエピソードの裏話や、原田さんと茅野との偶然の出会いからコメ作りの経験談、そしてそれまで観光客として訪れるだけだった八ヶ岳山麓への移住に至るまでの経緯や、現在の充実の茅野ライフが語られた。東日本大震災の際、都内のスーパーやコン



ビニからお米が一斉になくなり、空っぽになった棚を見た時に覚えた違和感が、移住を真剣に考えるきっかけになった。震災を通して実感した、あまりに便利で現代・都市的な生活への問題提起には、深く頷きながら聞き入る来場者も多く見受けられた。八ヶ岳山麓の自然と共に生きる喜びをユーモアを交えて軽妙な語り口で語り、笑いあり、共感ありの講演は原田さんが読者を惹きつけるのと同様に、聴衆を惹きつけた。終了後に書籍購入者を対象に行われたサイン会には長蛇の列ができ、来場者一人ひとりと談笑しながら丁寧にサインする原田さんの姿が印象的だった。

縄文を識る・特別講演会 大島直行氏講演会（主催：学習・識る部会）



「縄文人の心 生命と再生を巡る精神性と世界観」と題して行われた大島直行さん（札幌医科大学客員教授）の講演会には、茅野はもとより全国から考古学ファンが詰めかけ、茅野市民館コンサートホールは熱気に包まれた。縄文文化について独自の切り口で語ることで知られる大島さんの講演はどこでも常に人気で、リピーターも多く、今回は前日からの天候不良の影響もあり、講演会が行われるかどうか、事前の問合せも相次いだ。講演では、医学博士でもある大島さんが、従来の考古学の枠を軽やかに飛び越え、その専門分野である脳科学をはじめとして、心理学、神話学、文化人類学、宗教学、民俗学などさま

ざまな学問領域を縦横無尽に行き来しながら、縄文人の心の動きや働きを大胆に読み解いて論じ、聴衆の知的好奇心を大いに揺さぶった。大島さんは、縄文人が土偶に込めたであろう想いを、いつの時代も変わらない普遍的な人間の営みを通して、「再生への願いと祈り」として受け取り、聴衆に問いを投げかけた。ほぼ満席となった会場には、メモを取りつつ真剣に聞き入り、あるいは回覧資料を熱心に書き写す来場者の姿がみられた。全国の縄文ファンや在野の考古学研究者の熱心な取り組みと、茅野市民の縄文文化への関心が重なり合う、熱い講演会となった。

「土偶の日」記念対談「土偶のリアル」を語る」（主催：茅野市尖石縄文考古館）
譽田亜紀子（土偶女子／フリーライター）×守矢昌文（尖石縄文考古館館長）



「一体の土偶に出会ったのを機に6冊の本を書くことになった」フリーライター&エディターの譽田（こんだ）亜紀子さんを招いて、考古館・守矢館長と対談。この日は学術的な話は横に、“土偶女子”目線でトークが展開される楽しいひと時。さすがライター、館長の普段聞けない心情も引き出しながら、レアな内容に当の“土偶女子”も興奮気味。特に「縄文のビーナス」「仮面の女神」の発見に関わったときの思いを「感動なんて一瞬で、困ったなど。今まで研究し語ってきたことをすべてひっくり返えされるような大きな発見なので、ものすごく大きな宿題を背負った気分」と語っていたのが印象的だった。「土偶と目線を合わせたときに、土偶の向こうから縄文人が語ってくれる」「発掘には当たり屋、ハズレ屋があって館長は当たり屋」「何歳くらいの縄文人が土偶を作ったか」など聴衆を巻き込みながら話題はさまざまに広がっていった。

縄文文化大学講座（主催：茅野市尖石縄文考古館）
「星降る峠に黒曜石を求めてー縄文時代黒曜石鉱山の調査からー」 大竹幸恵



尖石縄文文化賞の前年受賞者を講師に開くこの講座は、最新の研究成果を聴ける場とあって毎年楽しみに訪れる考古学ファンも多い。

今回講師に迎えた昨年第17回受賞者の大竹幸恵さん（長和町黒曜石体験ミュージアム）は、地下に埋もれた黒曜石を縄文時代の人々が掘り出した採掘址群の発掘調査から、採掘活動の実態に迫った。黒曜石体験ミュージアムの設立とそこを拠点とした教育普及活動にも精力的に取り組まれる姿には、宮坂英弼先生を思い出された。

縄文ゼミナール「SUWA × JOMON」
（主催：茅野市尖石考古館）



8/12「縄文人の祈りの地 阿久遺跡」
佐々木潤（原村教育委員会教育課文化財係）
9/16「黒曜石鉱山から考えられる縄文人の生活」
宮坂清（下諏訪町教育委員会 博物館長）
10/14「諏訪湖底曽根遺跡 見えない遺跡が魅せるもの」
中島透（諏訪市教育委員会諏訪市博物館学芸員）

毎年複数回開催する縄文ゼミナール。フェスティバル期間外を含め今年度は諏訪5市町村それぞれから講師を招き、講座を行った。諏訪郡には多くの縄文遺跡があり、富士見町の井戸尻、原村の阿久など代表的な遺跡の存在は知っていても、意外と知らないこともあり、身近な地域の内容とあって、参加者が積極的に質問する姿もあった。

また、博物館同士の交流を深める良い機会にもなった。

縄文科学習展示発表（主催：学習・識る部会）



市内小中学校の縄文科の学習成果について、茅野市尖石縄文考古館ロビーで展示発表を行った。縄文科は茅野市独自の郷土研究・発掘を行う独自の教科であるが、市外にはあまり知られておらず、今回は格好の発信機会となった。成果発表は縄文川

縄文かるた大会（主催：学習・識る部会）



柳、オリジナルかるた、あんぎん（編布）、竪穴式住居や土器作りの紹介など、多岐にわたる内容だった。

来場者は、思い思いの研究成果の発表に顔をほころばせながら興味深く見入っていた。



茅野市青少年自然の森で行われた、縄文かるた大会。即完売、増刷となった、大人気の「縄文かるた」をみんなで楽しめる機会とあって、市内から多くの子どもたちが集まった。外は雨が降る、肌寒いいにくの天気だったものの、場内には子どもたちの熱気と歓声があふれた。公正を期したルール作りと部会員によるスムーズな運営も光った。家で遊ぶのとは異なるルールに緊張気味の子どもたちだったが、思いがけない入賞品には笑みがこぼれた。

ナイトミュージアム（主催：茅野市尖石縄文考古館）



子ども向け、大人向けの2回に分けて行われたナイトミュージアム。前者では発掘隊長や縄文人が登場する演出に子どもたちもビックリ。後者ではシックな大人の雰囲気 연출した。来場者それぞれが手にした懐中電灯や携帯電話で展示物を照



らしてみると、ビーナスの背中にキラキラ輝く雲母や、壁に大きく映し出された女神の影など、普段とは違った土偶の姿が暗闇に浮かび上がり、思わず歓声が上がった。いつもは静かな夜の考古館が、にぎやかな声であふれた夜だった。

特別展「CHINO/ 茅野×縄文 /JOMON」（主催：茅野市尖石縄文考古館）



縄文かるた「わ」の札は、「わたしたち遺跡の上に 住んでいる」だ。

茅野市には縄文時代の遺跡が237ヶ所、それ以外の時代のもも含めれば348ヶ所もの遺跡がある。今回の展示では、道路や野球場など、日常生活でよく利用する場所にある遺跡にスポットをあてた。市内に住む方からは、「うちの近所もそうだったのか」と驚きの声が聞こえ、縄文をより身近に感じる事ができたようだった。

公民館縄文講座（主催：茅野市公民館）



公民館講座の一つとして、茅野市公民館を会場に市民向けに開催した縄文講座には、平日夜間の開催にも関わらず今年も多くの受講者が応募した。「茅野市の縄文を語る」をテーマに全3回の講座では茅野市尖石縄文考古館の学芸員が各回公民館に出張して講座を行った。

初回では前年度に刊行した『茅野市縄文ガイドブック』についてを、最終回では国宝土偶の発掘に携わった守矢館長自らの講義をと、茅野市ならではの内容に受講生は説明に熱心に聞き入っていた。

縄文検定（主催：茅野市尖石縄文考古館）

初級、中級、上級とステップアップするにつれ、難易度も上がっていくが、これまで検定に合格された方は初級2,208人、中級192人、上級49人。大人だけでなく小学生も受験している。

学芸員の展示解説を聴いた後に検定を実施するため、受験者は事前の展示解説で熱心にメモをとるなどする姿がみられた。



平原綾香ライブ with 平原まこと（縄文アートプロジェクト 2017）



フェスティバルのファイナルを告げる「平原綾香ライブ with 平原まこと」。名曲「JUPITER」の前奏が流れると会場のボルテージは最高潮。サクソ奏者の父・まことさんと柔らかいトークを展開しながら、アルバム「LOVE2」より「ジャスミン」「私、結婚します」などを披露。まことさんのソロもさすがの貫禄だ。アンコール後の第2部では、作曲家の神山純一さんが登場した。フェスティバル実行委員長の柳平千代一市長を舞台に招くと市長は国宝土偶のレプリカを二人にプレゼントした後「今は暮らしにくい世の中。たくましくなければ生きていけないが、優しくなければ生きる資格はない。たくましさと優しさの原点は縄文にある」とあいさつ。そして北部中学校合唱部員と一般市民による合唱団 74 人が登場し、平原父娘と「まあるい星のまあるいムラで」「つないで」の2曲を歌い上げると会場は幸せな雰囲気になった。

Chino 縄文遺跡コンサート&トーク 2017
～国宝「仮面の女神」が出土した中ッ原遺跡から～
（主催：Chino 縄文遺跡コンサート&トーク実行委員会）



毎年恒例となったシンガーソングライター 草木啓夏さんによる Chino 遺跡コンサート&トーク。会場の中ッ原縄文公園は多くのリピーターでにぎわった。今回は復元された木柱列をライトアップする演出が秋の夜長のコンサートを美しく彩った。トークのコーナーでは茅野市尖石縄文考古館の守矢館長と小池学芸員が登場し、仮面の女神と中ッ原遺跡についてわかりやすく解説。縄文アートプロジェクトから生まれた縄文おどり部、古典フラダンス・ハーラウレコアエによるダンスと草木さんの歌声が中ッ原遺跡を包み込み、観客を幻想の世界へと誘った。

JOMON ファッション「縄文の衣」～喜びを伝える風と時間の祝祭～（縄文アートプロジェクト 2017）



「光を浴び 風を受け 縄文の衣が舞う そのときそこは 宇宙に変わる」。茅野市民館と交流がある衣装デザイナー・時広真吾さんの演出で、公募で集まった市民出演者、衣装制作を担当した市民サポーターが「衣」をテーマにパフォーマンスを創作した。会場は永明小学校の体育館。ステージが客席に、そして体育館全体が大きなアクティングエリアと化した。茅野の歴史と、そこに生きる人びとの想いと願いを一枚の布の可能性に託したパフォーマンスは、幕を開けたフェスティバルの目指すところを指し示し、八ヶ岳・茅野に横たう悠久の時の流れを感じさせるものとなった。岡谷出身のダンサー・振付家の小笠原大輔さん、2015 年の市民創作劇『となりの縄文人』で女神の舞を披露した永田桃子さん、そして茅野で踊りの楽しさを広めている木元梨枝さんとともに、布の形を自由に变化させながら駆けめぐる子どもから大人までの参加者たち。縄文時代からバトンを受け継いだ彼らのメッセージは、未来へ。



JOMON フードスเคープ
「縄文のうつわ展」
（縄文アートプロジェクト 2017）



JOMON フードスเคープ
「現代的縄文食風景」
（縄文アートプロジェクト 2017）



玉川荒神の古民家が心休まる“コミュニティ空間”に変身！近所のお母さんたち通称ママーズが切り盛りし、フードコーディネーターの藤田さん考案の現代的縄文食“八ヶ岳豊穡プレート”を提供。公募による「縄文のうつわ」の一部からお客さんが選んだ皿に、素朴に手に加えられた自然の恵みの数々が盛り付けられるという趣向。わらびとくるみの酒粕あえ、ニジマスのくんせい、エゴマのソースで食べる鹿肉の塩麴ソテー、赤・黒米などを混ぜた縄文おにぎりなど、お腹がはちきれるほどのボリューム。ママーズの笑顔も日増しに強くお客さんを照らした。

尖石縄文の里 夜の火祭り（主催：夜の火祭り部会）



晴天の夕暮れと共に始まった、尖石縄文の里夜の火祭り。舞台上で火をおこし、実行委員長自ら炎の矢で丸太の櫓を射抜いて点火する、粋な演出で開幕した。参加者みんなが、かがり火を囲んで、縄文の太鼓のリズムに合わせて思い思いに踊る、楽しい夜となった。



サプライズイベントとして行われた、縄文の結婚式。実際に今年結婚したカップルが貫頭衣に身を包んで登場。参加者が見守る中、二人は“縄文の司祭”に導かれ、茅野市のおいしい水で、火の神様に永遠の愛を誓った。式を終えると同時に恵みの雨が大地に降り注いだ。



この火祭りに併せて行われた、考古館で制作された大型土器（P20）と市内小中学生が制作した土器の野焼き 102 基。大小さまざまな土器の、夜の野焼きの様子は珍しく、寒さから火に当たりに来た参加者も、思わず土器の出来栄え、焼け具合に見

入っていた。大型土器にひびが入ってしまった時には思わず落胆の声がもれるなど、参加者も製作者と気持ちをとひとつにして火祭りに加わっている様子がうかがえた。

茅野市 5000 年尖石縄文まつり' 17（主催：尖石縄文まつり実行委員会）



前夜の夜祭りの終わりから降り始めた雨もすっかり上がり、秋晴れのもと始まった恒例の「茅野市 5000 年尖石縄文まつり」。参加者は考古館周辺の広大な野原で、さまざまな体験型アクティビティに参加した。与助尾根遺跡では縄文の里コンサートが行われ、タテタカコさん、草木啓夏さんの透き通る歌声が響き渡っ

た。尖石遺跡の東側では土器野焼き、とがりっち工房、ぼくらのプレイパークが行われ、子どもたちが遊びに熱中する姿が見られた。メイン会場の尖石遺跡の西側では縄文わくわくゲート、縄文市場、武道体験、小さな家づくり体験が行われたほか、糸萱かぼちゃやブタの丸焼きのふるまいには長蛇の列ができた。



縄文支え合い広場では、今回のために作られたさまざまなグッズを買い求める人が多く見られた（P21 参照）。メインステージの土の舞台では、市内の太鼓サークルによるコンサートが場内の雰囲気盛り上げた。

アイヌ文化の伝承者として知られる宇梶静江さんの講演で

は、アイヌの言葉や文化に込められた心と縄文の文化の類似性などが語られ、強い日差しが照りつける中、多くの来場者が力強い言葉に耳を傾けた。講演の終盤はアイヌの歌と踊りで締めくくられ、北の大地で育まれたアイヌの心とハヶ岳山麓で受け継がれた縄文の心が一体となり、来場者の心に深く刻まれた。

市民活動展（主催：茅野市図書館）



フェスティバル期間中は市内の各所で縄文に関わる企画を、ということで、茅野市図書館では尖石縄文考古館を拠点に土器づくりや縄文時代の衣服づくりといったサークル活動を行っている皆さんの活動展をロビーで開催。

また、入口では本フェスティバル中に講演会等を行っていただいた原田マハさん、大島直行さん、譽田亜紀子さんの著書や、平原綾香さんの CD など、図書館で貸出可能な図書等を紹介し、図書館ならではの方法でフェスティバルを盛り上げた。

縄文関連商品展示（主催：産み出す部会）



出品者を募集し、茅野駅前ベルビア 2 階で開催した展示会では縄文をモチーフにした商品の実物や紹介パネルが展示された。展示された商品は装飾品、食品、工芸品など多岐にわたり、こんなにもあったのかと驚くほどだった。茅野駅と直結している会場には電車を待つ観光客等も訪れ、市内外の方が興味深そうに展示に見入る姿がみられた。

この会場では展示のみで購入することはできなかったが、一部の商品は尖石縄文まつり会場でも販売をし、好評を博した。

道しるべの土器ランプ
（主催：JOMON 盛り上げ隊）



中に火を灯してランプのように使われていた縄文時代の釣手土器をモチーフに制作された道案内の土器ランプは、中心市街地の茅野駅から、縄文アートプロジェクトの企画が開催される場所や各ポイントに設置された。土器ランプの制作は考古館で活動する土器サークルのほか、永明中学校美術部の生徒らも協力。中学生らしい発想で現代風のオリジナルランプを制作した。縄文の街ならではのオブジェに、観光客や通りがかった人たちがカメラに収める姿もあった。

「道しるべ土器ランプ」 旅立ちお祝いセレモニー
（縄文アートプロジェクト 2017）



開催中のフェスティバルを活気づけようと、有志による「JOMON 盛り上げ隊」が9月に発足。諏訪東京理科大学3年の柿澤直音さんと、インターンシップで茅野市に来ていた静岡県立大学3年の吉田真友さんの2人を中心に、土器ランプの旅立ちセレモニーを企画。土器サークルから制作秘話等を聞き、土器ランプの旅立ちを祝した。

準備期間が短いながらも、大勢の協力を得て、木やりやラッパ、諏訪理大ジャズ研究部の演奏などで盛り上がった。

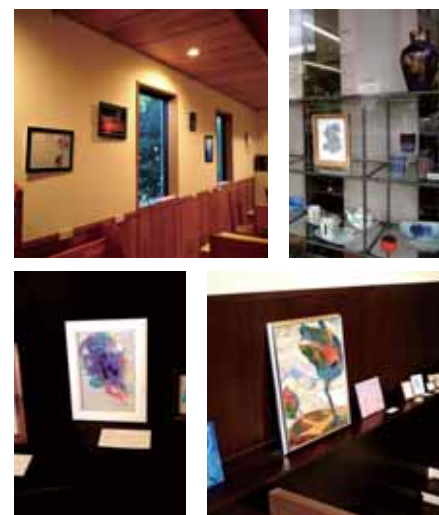
子どもたちとみんなの JOMON アートワーク（縄文アートプロジェクト 2017）



子どもの遊び心は JOMON だ！茅野に暮らす子どもたちが学校で「縄文」のいろいろに触れ、さらに自分なりに思いめぐらして作ったいろいろなもの 1,000 点以上を展示。茅野駅と茅野市民館をつなぐスロープ沿いには、お客さんを迎えるようにずらりと並んだ土器・土偶たち。中庭に縄文を象徴する渦巻き模様を描いた土器・土鈴の数々。茅野の土と染料を混ぜ合わせて土染めした T シャツ。子どもたちの想像の翼はとどまることを知らずにどこまでも広がる。



まちの展 vol.4
（縄文アートプロジェクト 2017）



日常の空間に変化を……と、市民館と茅野駅周辺の洋菓子店、書店、宝石店、文具店、川魚店など9店舗に18作家の作品を展示。交流スペース「モチヨリチカバ」は全作家の小作品を展示する「ポータルスペース」に。トークやコンサートも開催。

ギャラリー・バードハウス
（縄文アートプロジェクト 2017）



市民館中庭の木立ち、市役所通りのプラタナスの並木など12エリアを作家30名の“アートの巣箱”が彩った。「開かれた場で多様な表現を展開し、見慣れた風景が一変するアート空間を出現させる」という茅野市在住の美術作家・小川格さんが提案した野外展。「縄文の湧き上がる創造力に想いを馳せた」作品を公募。見慣れた街の雰囲気がアートで一変。

ギャラリー・ピオラハウス（縄文アートプロジェクト 2017）



茅野市民館東広場に、花で覆われたユニークな形の小さなうちが出現。内部は「まちの展」のアート作品の展示会場に。

縄文風小屋づくり体験（主催：学習・識る部会）



現在与助尾根遺跡に再現された竪穴住居は2代目。初代の復元住居は約70年ほど前に建てられたが、これは最初期の試みだった。そんな歴史的背景もある茅野市で、カヤ葺き屋根職人を講師に一般参加者とともに作り上げる縄文風小屋づくり体験会。通常は子どもも参加しやすいように夏休み中に実施しているが、今回は縄文まつり会場でも開催。講師のカヤ葺き屋根職人と、「縄文」を識る部会員が先導して実施した。

竪穴こそ掘らないが、自然から調達できる木材を組みあげ、カヤを葺く。クギやネジは一切使わず、縄で固定しただけの骨組は意外に丈夫で、大人が乗ってもびくともしなかった。よく晴れた空のもと、1日をかけて徐々に完成に近づく様に、参加者だけでなく来場者の多くが足を止めて見学していた。

縄文教室「竹ざるを作ってみよう編んでみよう」（主催：茅野市尖石縄文考古館）



縄文時代にも使っていたという竹。まずは竹についてのレクチャーを受け、いよいよ実践。ガムテープを下に敷いて、縦線を貼り付け、そこに横線を編み込んでいく。午後にはほぼ編み上げて一晩水に浸けて柔らかくし、翌日竹を丸めた縁を編んで完成となった。

縄文を楽しむ教室「縄文あんぎんでブレスレットを作ろう」（主催：茅野市尖石縄文考古館）



縄文時代の衣服を作る技術だった「あんぎん」の手法でブレスレットを制作した。今回は、縦糸を固定して、その縦糸に横糸を編み込んでいく方法で、参加者それぞれ手法を学びながら工夫を凝らしたオリジナルデザインのブレスレットを制作した。

縄文を楽しむ教室「小さい縄文のビーナスを作ろう」（主催：茅野市尖石縄文考古館）



実物の半分程度にあたる、高さ約15センチのビーナスを作成。粘土をパーツに切り分け、足の上に尻、胴、頭を乗せ、製作見本を見ながら形を整えて顔のパーツをはめ込む。最後に頭の文様を描き、乾燥させて出来上がり。個性的なビーナスが出来上がった。

大型土器制作



尖石縄文考古館のロビーで作られた大型土器。その大きさは小さな子どもの背丈ほどもあり、迫力満点。土器サークルによって制作された。緻密に計算された形や模様のひとつひとつまで、こだわり抜いて作りあげられていく力作に、たまたま通りがかった来館者の方も思わず制作者に声をかけ、説明に熱心に聞き入り写真に収める場面も見受けられた。

縄文支え合い広場（主催：学習・識る部会）



エゴマやどんぐりなどを使った縄文クッキー、マフィン、鹿革のネクタイやキーホルダー、小銭入れなどを障害者就労支援施設で製品開発し、縄文まつりや火まつり会場で販売した。健康者も障害者も共にフェスティバルを楽しみたい、そんな想いから参画いただいたのはアトリエひまわり（ひまわり作業所）、あすなろセンター、精明学園、この街福祉会モモ、ぴっぴ、ハヶ岳福祉農園、ふくろう SUWA の7施設。

商品は、フェスティバル終了後も尖石縄文考古館ミュージアムショップで販売されている。



HAPPY HALLOWEEN 縄文カフェ（主催：まちなか賑わい部会）



毎年開催されているお菓子まつり「春まちカフェ」の縄文バージョンとして企画された、ハッピーハロウィン縄文カフェには茅野のお菓子屋さん等が出店した。ベルビア2階の受付には、開店前から来場者の長蛇の列ができた。それぞれのお店が縄文をテーマに創作したオリジナルスイーツなどを出品。

大人も子どももスイーツビュッフェ用のプレート片手に各店舗を行き来、ベレックに特設されたカフェコーナーで舌鼓を打った。子どもたちは思い思いのハロウィン仮装でスタンプラリーを回ったり、仮面の塗り絵を楽しんだ。また体験コーナーではオリジナルアクセサリー制作体験なども行われた。

グッズ一覧

開催記念フレーム切手シート



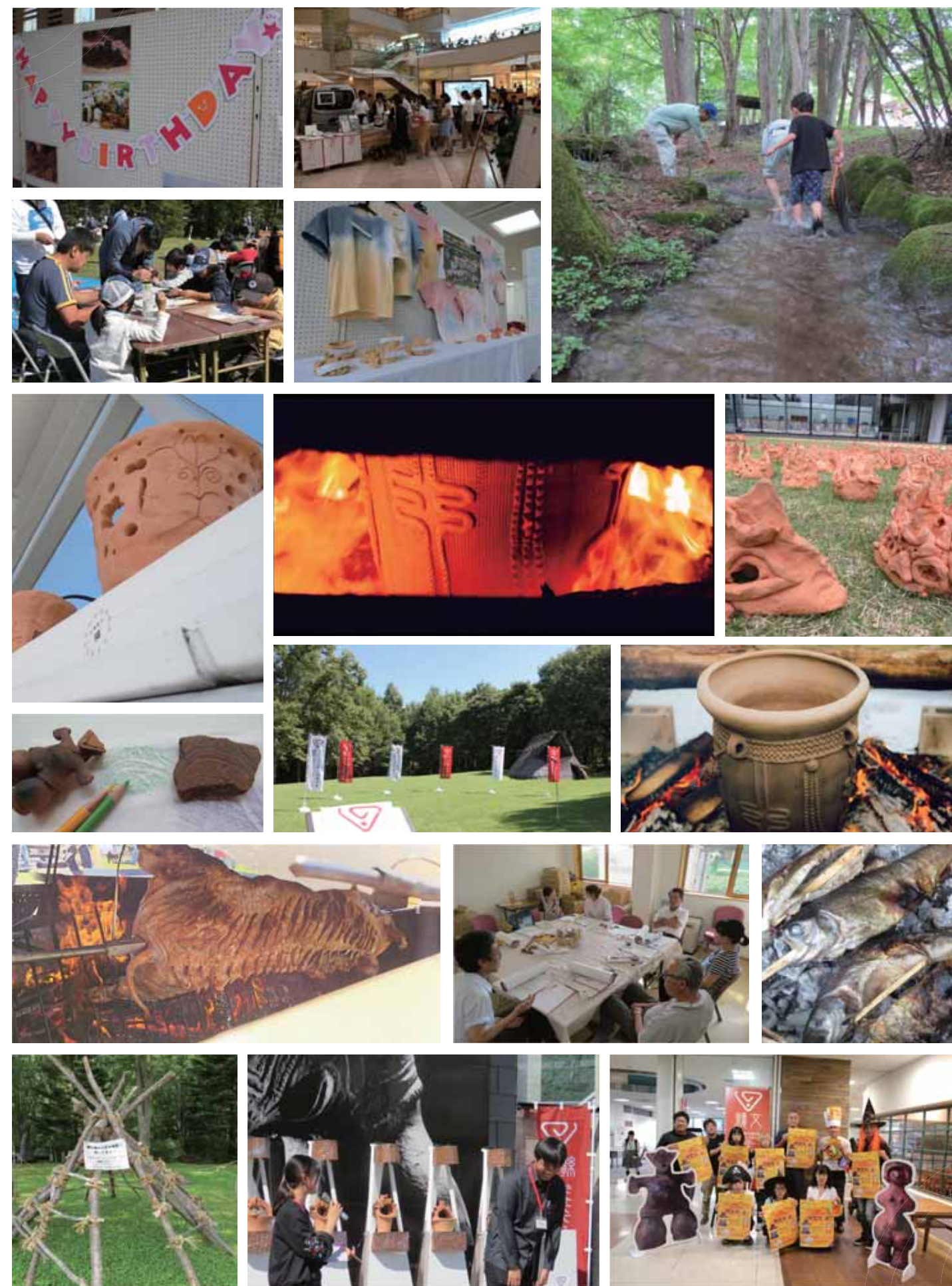
フェスティバルを記念して、日本郵便信越支社が販売した「フレーム切手シートセット」。フェスティバル中、イベント会場等で、フレーム切手シート、縄文のビーナスポストカード、クリアファイルのセットで販売された。フレーム切手シートは尖石縄文考古館の協力によってデザインされ、62円と82円それぞれ5枚のデザインには、国宝土偶2点の他、市内で出土した縄文土器8点を使用した。縄文のビーナスの形のポストカードは、切手を貼ればそのまま郵送することができる。クリアファイルには縄文かるたがあしらわれた。

ロゴマークを用いたグッズ



パッケージにロゴマークを使用したお菓子







広告出稿状況

1 記事、広告、取材等

期間・発行日	種類	会社名	番組等	備考
7/23 (日)	雑誌	FDA 機内誌「DREAM3776」	2017 夏号	
8/ 1 (火)	フリーペーパー	ぶらざ 8月号	記事掲載 1 ページ パンフレット折込約 80,000 部	
8/20 (日)	雑誌	月刊「KURA」9月号	「77 市町村 INFORMATION」コーナー	
8/22 (火)	広報	広報「ちの」9月号	2 ページ	
8/22 (火)～30 (水)	テレビ	ビーナチャンネル	特集番組	
9/ 1 (金)～9/10 (日)	テレビ	長野放送	フリースポット CM	15 秒× 10 回
9/ 1 (金)～10/22 (日)	ラジオ	LCV エフエム	市町村情報コーナー	
9/ 2 (土)	テレビ	長野放送	PUSH ☆	8/26 イベント取材
9/ 7 (木)	新聞	長野日報	特集 3 ページ	
9/ 7 (木)	新聞	市民新聞	特集 4 ページ	
9/13 (水)	テレビ	NHK	ひるブラ	12：20～12：43 全国生中継
9/16 (土)	新聞	信濃毎日新聞	信州 DC 特集内	
9/18 (月・祝)	テレビ	TSB テレビ信州	ゆうがた Get	
9/20 (水)	フリーペーパー	縄文 ZINE 7号	イベント告知 縄文かるた読者プレゼント	
9/22 (金)	広報	広報「ちの」10月号	2 ページ	
10/ 1 (日)～7 (土)	テレビ	ビーナチャンネル	特集番組	

2 イベント等

期間	イベント名	場所	備考
6/28 (水)	茅野市・ビジンサマ・マルシェ	霞ヶ関ビルディング 1b 階	パンフレット配布
7/ 9 (日)	長野県茅野市 ビジンサマ・マルシェ	ゲートシティ大崎アトリウム	パンフレット配布
7/23 (日)	親子で楽しむ縄文体験 ～学び、感じ、味わうハケ岳山麓の魅力～	銀座 NAGANO	参加者 4 組 11 名
8/ 1 (火)	小津安二郎記念・蓼科高原映画祭プレイベント 「東京物語」スペシャル上映会＋トークショー@銀座	築地松竹ビル 銀座松竹スクエアプラザ	パンフレット配布
8/ 2 (水)	茅野市・ビジンサマ・マルシェ	霞ヶ関ビルディング 1b 階	パンフレット配布
8/26 (土)	親子で体験!! リアル JOMON ライフ	尖石縄文考古館 青少年自然の森ほか	参加者 4 組 13 名
8/31 (木)～10/17 (火)	ディスプレイ展示	長野県大阪観光情報センター	ポスター等の設置

2017 年 9 月 7 日（木） 長野日報



メディア掲載一覧 (一部抜粋)



2017年7月5日(水)
茅野市民新聞



2017年7月7日(金)
長野日報



2017年9月8日(金)
長野日報



2017年9月10日(日)
長野日報



2017年9月10日(日)
長野日報



2017年9月14日(木)
長野日報



2017年9月19日(火)
長野日報



2017年9月25日(月)
長野日報



2017年10月1日(日)
茅野市民新聞



2017年10月3日(火)
長野日報



2017年10月9日(月)
茅野市民新聞



2017年10月3日(火)
長野日報



2017年10月5日(木)
茅野市民新聞

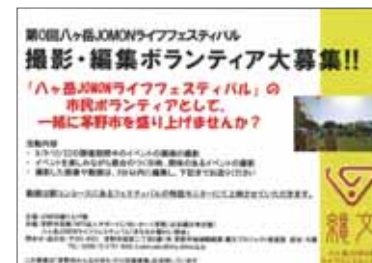


2017年10月9日(月)
長野日報



2017年10月16日(月)
茅野市民新聞

チラシギャラリー



■広報印刷物の配布・掲出

チラシ

A4 サイズ 100,000 部 2017 年 6 月 26 日発行
関係各所に配布、ぶらざ 8 月号にて 78,879 部折込
ポスター

A2 サイズ：1,000 枚 2017 年 7 月 掲出
B1 サイズ：400 枚 2017 年 8 月 関係各所で掲出

のぼり旗 400 枚 考古館・イベント会場等で掲出

謎の国諏訪の国タイアップうちわ 3,800 枚

■WEB

WEB サイト 茅野市縄文プロジェクト
<http://www.city.chino.lg.jp/jomon/lifefestival>

仮チラシ

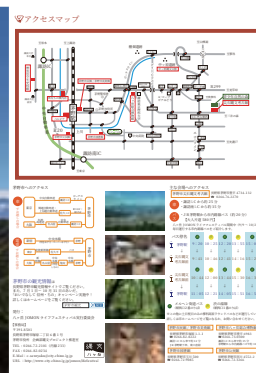


ポスター

ストラップ



うちわ



公式チラシ
(A4・4 つ折り)



ロゴへの思い

今から約 1 万年以上前に、ここ茅野では縄文時代の人たちで栄えていました。その時に産まれたものが、今になっても存在し文化として引き継がれています。

このずっと長く続いてきた文化。その当時の人たちであればどんなトレードマークを残したのか、きっと 1 万年後の、もっと先の子孫に向けて変わらない愛の象徴を残しているだろう。そんな気持ちを感じながらこのロゴマークを制作いたしました。

子どもたちでも気軽に描けるような、いつも身近に感じてもらえるような。「今」はずっとここにあるんだよ。と、この先もずっと変わらない子どもたちへの愛を象徴するように、目まぐるしく変わるこの時代でもずっと変わらない形。これからの 1 万年もずっと変わらない。その想いをこのロゴマークに込めています。

この気持ちをあなたからずっと先の未来へ広がっていくことを願いに、「変わらない気持ち」をこの縄文の形を見たら思い出せるように。そんな気持ちになってほしい。そう思っています。

ロゴマークデザイン 宮下雄飛



ロゴ選定経過

ロゴの選定にあたっては、公募型コンペを行い、厳正な審査を経て決定した。

募集期間 平成 29 年 1 月 27 日 (日) ～平成 29 年 3 月 3 日 (金)

応募資格 茅野市・諏訪市・岡谷市・下諏訪町・富士見町・原村に在住または在勤するデザイナーであること等

応募総数 7 者 (計 11 作品)

縄文プロジェクトとは

茅野 × 縄文

2009 年、イギリス大英博物館特別展 “The Power of DOGU” が開催され、日本の縄文文化に注目が集まりました。この展覧会のため、茅野市出土の土偶、縄文のビーナス、仮面の女神も海を渡り、訪れた世界中の人々から称賛を浴びました。

便利さや物質的な豊かさを追求する大量生産・大量消費の現代社会には、自然破壊、環境汚染、地球温暖化、地域の結びつきの弱まりなど、個人的、社会的な課題が山積しています。

自然の生態系の中でうまく共生し、調和した社会により 1 万年も平和に暮らすことのできた縄文文化、縄文人の精神性には現代社会が抱えるこれらの課題を解決するヒントがあるのではないのでしょうか。

自然豊かな八ヶ岳のふもと、かつて縄文文化が栄え、今もその流れを受け継ぐ茅野市だからこそできるまちづくりをすすめています。

縄文人の精神性

友愛の心

それまでの移住生活から定住生活を可能にした支え合いや助け合いの生き方

足るを知る心

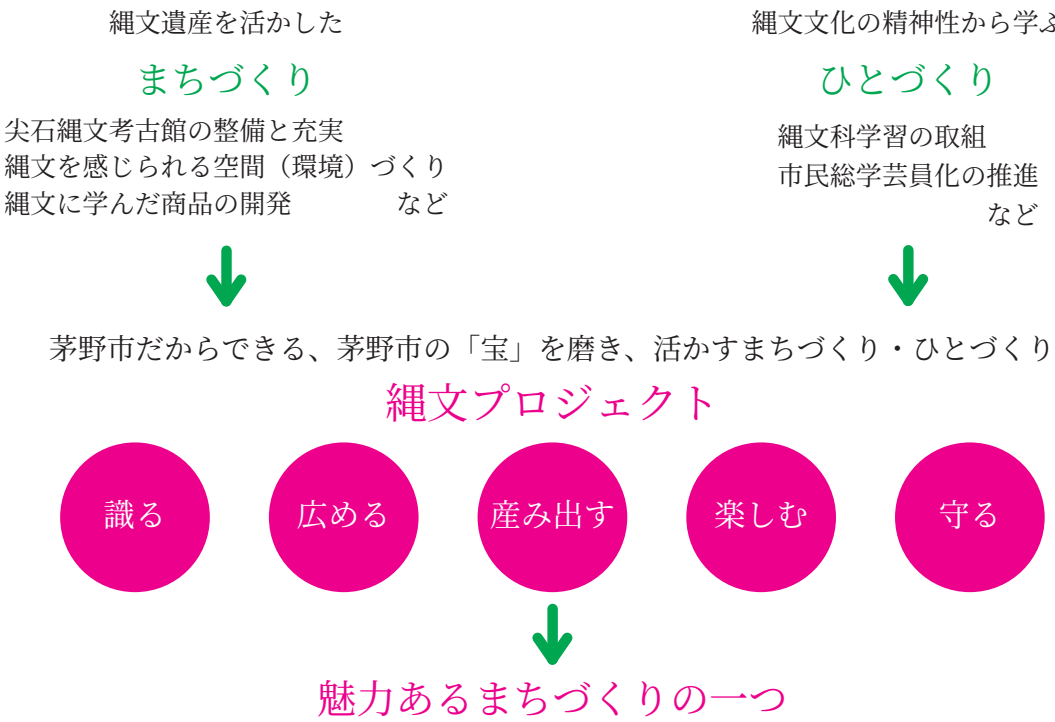
住居の材や食糧を採る林を大切にし、自然を必要以上に壊さない、自然と共生する生き方

たくましさ・冒険心

より豊かな生活のため交易を行い、東北や北海道まで黒曜石を運ぶフロンティア精神

創造の精神

草を縄にする、土を器にするなど、そこにある資源を上手に活用する知恵と工夫の生き方



茅野市がすすめる縄文プロジェクト これまでのあゆみ

2000（平成 12 年）

尖石縄文考古館リニューアルオープン
茅野市 5000 年祭

仮面の女神 出土



2002（平成 14 年）



中ッ原縄文公園オープン



2004（平成 16 年）

仮面の女神 県宝に



2006（平成 18 年）

仮面の女神 国重要文化財に



2009（平成 21 年）

縄文まつり
10 周年記念前夜祭
縄文文化月間スタート

2 土偶
大英博物館へ



2010（平成 22 年）

縄文プロジェクト構想 策定

駅前縄文公園オープン
考古館 10 周年記念シンポジウム



2011（平成 23 年）

縄文検定スタート



2014（平成 26 年）

縄文プロジェクト 改定
市内小中学校全校で
縄文科学習スタート

仮面の女神 国宝指定
「縄文八ヶ岳」ブランドブック 刊行



2015（平成 27 年）

縄文ラッピングバス
運行スタート

茅野市民館開館 10 周年記念
縄文アートプロジェクト 2015



2016（平成 28 年）

茅野市縄文かるた
茅野市縄文ガイドブック 刊行



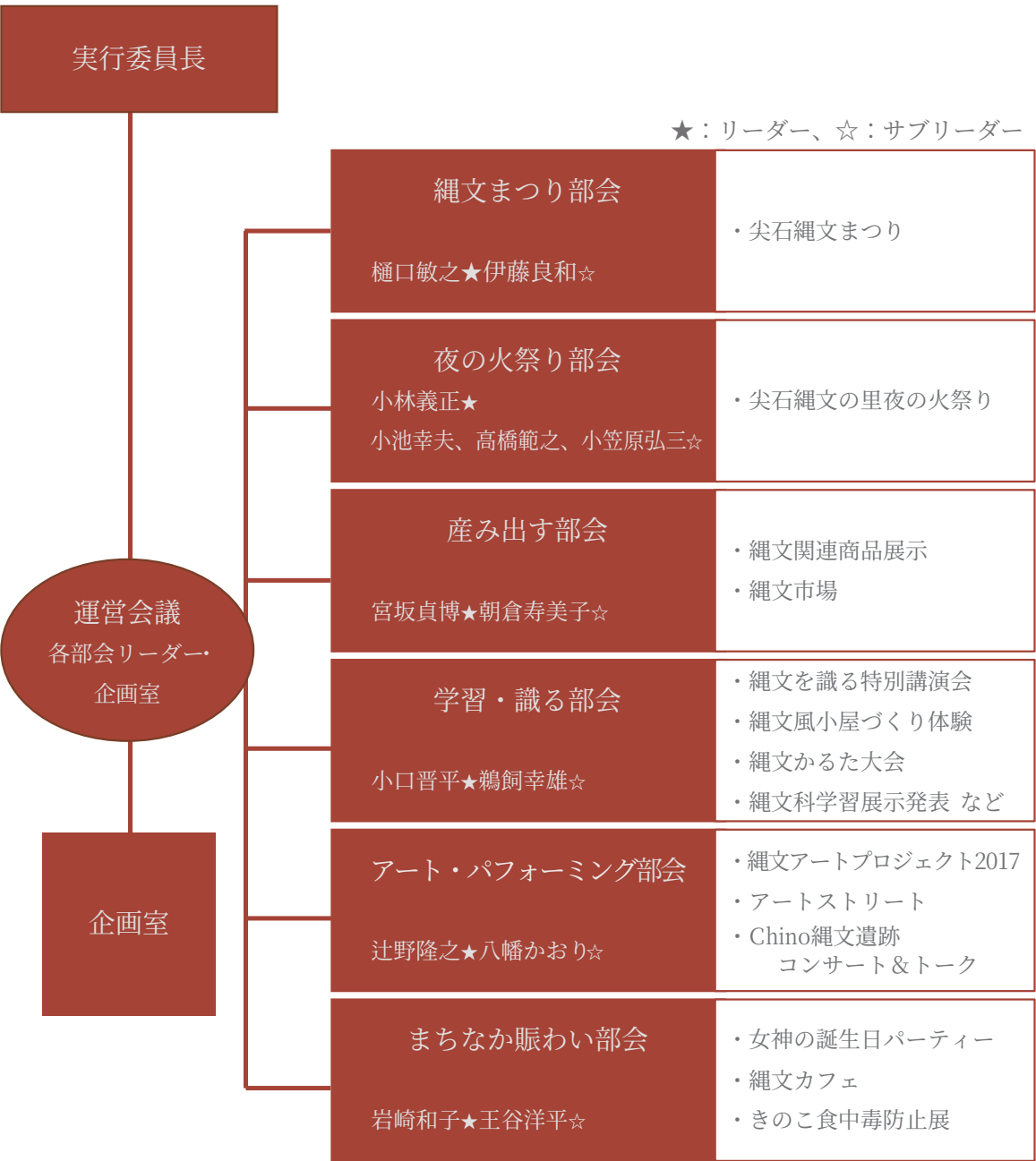
2017（平成 29 年）

第 0 回
八ヶ岳 JOMON ライフフェスティバル 開催





実行委員会



運営会議
各部会リーダー・
企画室

企画室

協力関係機関

- ・茅野商工会議所

・茅野市観光協会

・茅野市商業連合会

・茅野市飲食店組合

・チームちの飲食店組合

・茅野シール協同組合

・春まちカフェ実行委員会

・茅野市金融団

・JA信州諏訪
- ・J R 東日本（茅野駅）

・茅野・産業振興プラザ

・小津安二郎記念・蓼科高原映画祭実行委員会

・縄文文化輝く会

・茅野市芸術文化協会

・茅野市美術協会

・茅野市音楽協会

・茅野市体育協会

・読書の森 読りーむ in ちの
- ・CHUKO らんどチノチノ

・茅野市ぼくらの未来プロジェクト

・ゆいわーく茅野

・蓼科笹類植物園

・蓼科塾

・公共交通事業者

等（順不同）



来場者数

八ヶ岳JOMONライフフェスティバル 来場者数

主催者	イベントタイトル	期間	来場者(参加者数)	開催場所
■実行委員会主導プロジェクト			9,540	
考古館	特別展「CHINO×縄文／茅野×JOMON」	7/15(土)～10/22(日)	考古館来館者数	尖石縄文考古館
学習・識る部会	縄文科学習展示発表	8/25(金)～9/12(火) 9:00～16:00	考古館来館者数	尖石縄文考古館
図書館	市民活動展	8/26(土)～10/26(木)	カウントなし	茅野市図書館
まちなか賑わい部会	仮面の女神誕生日パーティ	8/26(土)12:00～21:00	2,000	茅野市民館中庭
コンサート実行委	Chino縄文遺跡コンサート&トーク2017	9/2(土) 19:00～	70	中ツ原公園
総合博物館	総合博物館プラネタリウム	9/2(土)～10/29(日) 10:30～11:15、13:30～14:15	200	八ヶ岳総合博物館
考古館	尖石縄文考古館無料開館	9/8(金)～10/22(日)	◇	尖石縄文考古館
企画室	オープニングセレモニー	9/9(土) 10:00～	130	考古館周辺
まちなか賑わい部会	オープニング記念 原田マハ氏講演会	9/9(土) 13:30～	300	茅野市民館コサトホー
考古館	ナイトミュージアム	9/9(土) 19:00～	41	尖石縄文考古館
考古館	縄文を楽しむ教室	9/9(土)・17(日)	23	尖石縄文考古館
郵便局	JOMONライフフェスティバル開催記念フレーム切手シート販売	9/8(金)～10/22(日)	-	茅野・富士見・原郵便局
考古館	縄文検定	9/16(土) 上級 10:00～12:00 10/14(土) 初級・中級 10:00～12:00	10	尖石縄文考古館
考古館	縄文ゼミナール「SUWA×JOMON」	9/16(土)・10/14(土) 13:30～15:00	242	尖石縄文考古館
学習・識る部会	縄文を識る・特別講演会 大島直行氏講演会	9/18(月・祝) 13:30～	250	茅野市民館コサトホー
公民館	公民館縄文講座	9/21(木)・28(木)・10/12(木)	100	文化センター
考古館	縄文教室	9/23(土)・24(日)・10/21(土)・22(日)	69	尖石縄文考古館
飲食店組合等	きのこ食中毒防止展 10:00～16:00	9/30(土)・10/1(日)	400	西友横内店
考古館	宮坂英弼記念尖石縄文文化賞授賞式	10/7(土) 10:30～12:00	60	尖石縄文考古館
考古館	縄文文化大学講座 大竹幸恵氏講演会	10/7(土) 13:30～15:00	60	尖石縄文考古館
夜の火祭り部会	尖石縄文の里 夜の火祭り	10/7(土) 17:00～20:00	500	尖石史跡公園
縄文まつり部会	尖石縄文まつりイベント	10/8(日) 9:00～15:00	3,800	尖石史跡公園
学習・識る部会	縄文風小屋づくり体験	10/8(日) 8:30～15:00	50	尖石史跡公園
考古館	土偶の日・記念対談 譽田亜紀子氏トーク	10/9(月・祝) 13:30～15:00	90	尖石縄文考古館
考古館	どんぐり見つけてあそびましょ	10/14(土) 10:00～12:00		雨天のため中止 尖石縄文考古館
まちなか賑わい部会	～Harumachi～ 縄文カフェ(Happy Halloween縄文カフェ)	10/14(土) 10:30～16:00	1,000	ベルビア
学習・識る部会	縄文かるた大会	10/15(日) 9:00～15:00	145	青少年自然の森
企画室	クロージング	-	-	茅野市民館
産み出す部会	縄文市場	10/8(日)、9月23日～10月9日(展示)	カウントなし	イベント会場
学習・識る部会	縄文支え合い広場	期間中随時	カウントなし	各所
■アート・パフォーミング部会、市民館主導プロジェクト(縄文アートプロジェクト等)			2,045	
市民館	道しるべの土器ランプ	9/9(土)～10/22(日)	カウントなし	市内各所
市民館	JOMONファッション「縄文の衣」～喜びを伝える風と時間の祝祭～	9/16(土)パフォーマンス	136	茅野市民館・永明小
市民館	竪穴式茶室「低過庵」ワークショップ		114	茅野市民館
市民館(+藤森照信氏)	竪穴式茶室「低過庵」見学会	9/17(日)、10月7日(土)、21日(土)ほか	646	守矢史料館周辺
市民館(+藤森照信氏)	竪穴式茶室「低過庵」トークイベント「人が求める住まいとは？」	10/20(金) 18:30～	135	茅野市民館マホー
市民館	JOMONフードスケープ「縄文のうつわ展」	9/22(金)～10/2(月)、10/8(日)～22(日)	カウントなし	茅野市美術館ほか
市民館	まちの展Vol.4	10/1(日)～22(日)	221	茅野駅周辺
市民館(+小川格氏)	ギャラリー・バードハウス	10/1(日)～22(日)	カウントなし	市役所通りほか
市民館	ギャラリー・ピオラハウス	10/1(日)～10/22(日)	カウントなし	茅野市民館東広場
市民館	こどもたちとみんなのJOMONアートワーク	10/1(日)～22(日)	カウントなし	茅野市民館中庭
市民館	JOMONフードスケープ(現代的縄文食風景)	10/8(日)・9日(月・祝)・15(日)・22(日)	158	荒神(古民家)
市民館	平原綾香ライブwith平原まこと	10/22(日) 17:30～	635	茅野市民館マホー
■関連イベント			1,409	
縄文文化輝く会	縄文文化講座	8/27(日) 13:30～	130	マリオローヤル会館
マラソン大会実行委員会	八ヶ岳縄文の里マラソン	9/10(日)	1,199	考古館周辺
エコツーリズム協議会	歴史文化委員会 諏訪湖新作花火大会を畔の茶屋から楽しもう	9/2(土)	60	杖突峠
笹離宮	笹離宮 縄文夜話	10/7(土) 17:00～19:00	20	笹離宮

- A 考古館入館者数(9/9～10/22)(◇イベント込)(※) 14,341 人
- B イベント来場者・参加者数(プレイベント含む) 11,675 人
- C 関連イベント参加者数 1,409 人
- D カウントなしイベントの見込み 2,000 人

総 計 29,425 人

※【参考】考古館入館者数 平成 28 年 9/9-10/22 9,828 人 平成 27 年 .9/9-10/22 8,957 人